



日本の国祭日に寄せて

本日2月23日は日本の徳仁天皇陛下63歳の誕生日で、日本の国祭日（ナショナルデー）となります。徳仁天皇陛下は、モーリタニアが独立した1960年にご生誕されました。1960年は日本・モーリタニア双方にとって記念すべき年と言えます。

モーリタニアの独立後すぐに両国は外交関係を樹立しました。以来、漁業、食糧安全保障、教育、保健分野をはじめとして様々な分野において、互いのたゆまぬ努力によって信頼・友愛の関係を築いてまいりました。地理的には遠く離れていても、両国にはそれをものともしない親密な関係にあります。

昨年2月、未曾有の人的・経済的損失を引き起こした新型コロナウイルスからようやく立ち直り始めていた頃、世界はロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにしました。以来、ウクライナ危機は、日本やモーリタニアも含めた世界経済に甚大な影響を与えました。皆様の生活でも、逼迫する小麦や食料品のほか、ガソリン等エネルギー価格の高騰に疲弊したと思います。また、近隣情勢は引き続き回復の見通しが立っておらず、難民の数も増大しました。

こうした経験から、どれだけ国際社会の平和が貴いものか、また、日々の安定のために果たすべき努力がどれだけ重要であるか、痛感した一年だったと思います。日本としては、力による一方的な現状変更の試みを断固として拒否し、法の支配に基づく国際秩序を守り抜くべきという信念を持っています。この点、日本政府は、地域の平和と安定においてモーリタニアが果たす役割や取組に敬意を表しつつ、「困った時はお互い様」のという考えの下、様々な分野で友人たるモーリタニアとの協力を進めています。

昨年8月にチュニジアで開催されたTICAD8では、友人たるアフリカ諸国に対し、食糧安全保障や地域の安定化、グリーン投資等の分野において、今後3年間で官民総額300億ドル規模の資金投入を発表しました。日本は、モーリタニアも含めたアフリカと「共に成長するパートナー」であるべく、手を取りながら関係を進めて参ります。

例えば、日本はこれまでモーリタニアに対し40年以上にわたりほぼ毎年日本米を供与し、食糧援助を行っております。昨年11月には、日本米3,500トンがヌアクショットに到着しました。また、7月に合意した1.5億ウギア（訳6億円）相当の食糧援助の到着も待たれています。

漁業分野では、現在工事中の水産物衛生検査公社（ONISPA）ヌアディブ検査・分析所がまもなく完成するほか、ヌアクショットの水産職業訓練センター（CQFMP）の建設も近々始ま

る予定です。JICA の技術協力も加えて、これら事業が海産物の輸出能力強化に資することが期待されています。

また農業分野でも、多発する旱魃や洪水被害に対応すべく、農業機材の供与を決定しました。更に、草の根レベルでも、地方の遠隔地や貧困地域で保健ポストや小・中学校を建設しています。今後とも、モーリタニアにおける支援の多角化に取り組む考えです。



日本からの援助米



工事中の ONISPA ヌアディブ検査・分析所



小学校引き渡し式の際の歓迎の横断幕

コロナ禍の終息もあり、最近では、両国間での人的交流が盛んになっています。昨年12月、日本政府主催のWAW! 2022参加のため訪日したアイサタ・ラム投資促進庁 (APIM) 長官は、日本で初となるモーリタニア投資促進セミナーで講演等を行いました。続けて今年1月には、マイーフ漁業・海洋経済大臣が日本を訪問し、官民を交えた水産分野での協力強化について意見交換が実施されました。更に1週間後には、カーン経済・生産促進大臣も訪日され、政府や関係団体幹部と会談を行い、両国間投資促進に向けた協力関係を深化していくことを確認しました。一方で、日本からも政府・ビジネス関係者がモーリタニアを訪問する機会も増えています。文化やスポーツ交流も含めて裾野の広い人的交流が、両国の相互理解と信頼醸成に繋がっていくことを切に願います。



カーン経済・生産促進大臣と山田外務副大臣



ラム APIM 長官と内田大使

天皇誕生日という記念すべき機会に、改めて、世界の平和と繁栄、モーリタニアの発展、そして日・モ両国国民の友愛・信頼関係の一層の深化を祈念します。当館としても、日・モーリタニア間の関係の強化に向けて更に邁進していく所存です。

(了)